

1. 県知事の溝口でございます。一言ご挨拶申し上げます。
2. 本日、第43回原産年次大会が、今井原産協会会長、経済産業省の近藤政務官、IAEAの天野事務局長、米国エネルギー省のミラー次官補、メルビン駐日デンマーク大使をはじめ、国内外から多くの皆様にご出でいただき、このように盛大に開催されますことをご喜び申し上げます。また、遠路、ご来県いただいた皆様に心から歓迎申し上げます。
3. 近年、地球温暖化や石油資源の不足などに対応するために、原子力エネルギーの必要性は益々高まっております。
4. 本大会では、今後の原子力の安全・有効利用について活発にご討議いただき、有意義な会合となるようご期待申し上げます。
5. 昨日、見学された方々もおられると思いますが、島根県には中国電力(株)の原子力発電所があります。ここでは2つの原子炉で、約130万kWの電力を供給する能力があります。さらに、発電能力約140万kWの3つ目の原子炉が来年中の運転開始を目指して、工事中であります。
6. こうした原子力発電がこの地で行われるには、原子力発電の安全性を確保し、住民の方々の信頼を確保することがもっとも大事なことであります。多くの原子力発電の関係者がお集まりになっているこの機会に、改めて、このことを地元の立場から皆様へお願い申し上げます。
7. この大会では、こうした問題について、地元の代表の方々も参加して意見交換を行うセッションも予定されていると聞いておりますので、よろしく申し上げます。
8. さて、皆様にご出でいただいたこの島根には、ラムサール条約に登録された宍道湖・中海や、出雲大社、松江城、世界遺産の石見銀山など、豊かな自然と古き良き伝統や文化が良く残されております。
9. 原子力発電という高度な技術をもって国民に必要なエネルギーを供給する先端的施設が、島根の豊かな自然、古き文化・歴史と調和して利用されることが期待されているのであります。

10. 日本の歴史という観点から島根を見ますと、712年に編纂された日本最古の公式の歴史書、「古事記」において、神話の部分の3分の1はスサノオノミコトのオロチ退治やオオクニヌシノミコトの国譲りなどのいわゆる出雲神話から成っておりますように、この出雲の地には古代から今に続く長い歴史と文化があります。

11. 明後年の2012年には、古事記編纂から1300年になります。また、翌2013年には出雲大社の60年に一度の大遷宮を迎えます。

皆様には、大会中、島根に古くから伝わる、神話に由来する神楽もご覧いただくことになっていると聞いていますが、今回のご滞在を楽しまれ、これをご縁に、また島根にお出かけいただく機会があれば幸いです。

12. 終わりになりますが、大会の開催にご御尽力いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、本大会が実り多いものとなるよう、祈念いたしまして、歓迎のご挨拶といたします。

誠にありがとうございました。